

定時制午後部教育目標			重点目標（中長期的目標）		総合評価		
三部からなる定時制の特色と単位制の趣旨とを活かし、生徒・保護者のニーズに応える教育を行う。			単位制の一層の推進・充実を図るとともに、生徒が基礎学力と基本的生活習慣とを身につけ、着実な学校生活を送ることができるようにする。		午後部新設にあたって、職員の協力の下、システムの構築に多くの時間と労力を費やすことができた。また日々の教育活動においては、あくまでも午前部と同質の教育活動を行うよう努めることができた。しかし教育目標中の「生徒・保護者のニーズに応える教育」という点に照らすと、生徒の実態や保護者の願いを十分に汲み取れたか等、掲げた目標自体をはじめとして、改善を要する問題が山積している。		
			今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
			1. 「学び直し」の意欲の尊重と学習・生活の基礎固め 2. 集団生活の中でルールを守る態度の育成 3. 確かな基礎学力の定着と進路指導の充実		新体制に移行できたことはよいが、生徒に目を向けた教育活動の面で、今後解決すべき課題は極めて多い。	B	日々の具体的な教育活動については、今後とも努力を続けたい。しかし設定目標自体に起因する反省に関しては、改めて生徒・保護者の実態や願い等を具体的に把握するとともに、中・長期的ビジョンについて職員全体で議論を重ねられるような時間と場を確保することが急務である。
領域	対象	評価項目	評価の観点		成果と課題	評価	改善策・向上策
教育生活動	教育課程	開講科目の充実	様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒の希望を生かすような講座の設定および編成ができたか。		可能な限り希望に添い編成に努めた。多くの公開(社会人聴講)講座を新設できた。	A	様々な制約の中で、困難を伴うが、個に応じた編成に努めたい。新年度も公開講座を計画している。新年度からの午後部生の午前選択実施に向けて、編成に工夫が必要となる。
	学習指導	基礎・基本を重視した指導	可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。 生徒による授業評価を行い、その結果を活用した指導ができたか。		国・数・英の3教科で計8講座の習熟度別授業が展開でき、基礎学力の定着と伸長に努められた。また個別の指導や面談などを行うよう努めたが、時間的な制約が厳しく、充実には至らなかった。	B	保護者懇談会については、2期制移行に伴い、実施時期と方法について検討し、新年度の行事予定に組み込んだ。個別指導については、今後とも課題として取り組みたい。
		定着を重視した指導 個に即した着実な指導	必要に応じ、よりゆとりとした進度で、基礎・基本の定着を目指す指導ができたか。 個に即し、より着実な基礎固めを目指す指導ができたか。				
	生徒指導	ルール・マナーに対する意識の向上	生徒会と連携できたか。 生徒・保護者から信頼される指導はできたか。		生徒会と協力した掲示活動等で、生徒に自主的な意識が芽生えた。生徒と担任の信頼関係により保護者とも信頼関係が構築できた。	B	地域への活動など、視点を変えた取り組みで、生徒の意識向上を図る。
		不登校生徒などへの対応	情報を共有して支援できたか。 保護者との連携は強化できたか。 外部専門家などと連携できたか。		ワークショップや連絡会を通じて、生徒の具体的な様子を職員間で共有できた。相談室、保健室では、外部専門家と連携して、ハローワーク訪問や医療機関の紹介相談窓口など、個々の生徒に対する支援ができたが、「医療的」「長期的」事案への支援と連携には、必要性と限界が逼迫している。	A	全職員による情報共有と協力体制。 引き続き、外部専門家との連携。
		暴力やいじめの防止	年次会・職員相互で連携できたか。 生徒・保護者との信頼関係は構築できたか。 人権感覚が向上したか。		係、年次、担任で連携した指導ができた。 いじめなどの問題には、把握と防止のための具体策が課題である。体験型の人権教育で、生徒が人権感覚を身につけることができた。	B	いじめ問題に対する把握と防止の具体策の検討と実行。
	動	喫煙や薬物防止	校外での巡視および啓蒙活動はできたか。		新入生対象の喫煙防止講話では、アンケート結果から禁煙への意識を高めることができた。継続した巡視活動ができた。	A	地域への活動など、視点を変えた取り組みで、生徒の意識向上を図る。
		交通安全指導	原付通学許可者への講習ができたか。		該当生徒がなく、講習会はやらなかった。	B	教習所など、外部専門機関の活用と、ホームルームでの取り組みなど工夫して実施したい。
	進路指導	進路学習の充実	進路講話、1年次進路ガイダンスが実施できたか。 ホームルーム等において「定時制ハンドブック」の活用ができたか。		6月実施の進路講話は成果があったが、年次別進路学習の機会をさらに増やしたい。	B	年次ごとのガイダンスの開催は今後の課題である。ホームルームにおいて、定時制ハンドブックをさらに活用したい。
		進路選択意識の向上	就職説明会、学校説明会参加等による進路先研究の指導ができたか。				
進路実現のための基礎学力の定着		ドリル学習・補習が実施できたか。 長期休業中の課題指導ができたか。					
生徒会活動	くれき野祭の充実	それぞれの役割分担の中で、多くの生徒が主体的に取り組めたか。		くれき野祭の新企画に、午後部の中でも主体的に参加した生徒もいて、活動の面から成果をあげることができた。また、各委員会活動は午後からの登校であるため活動に制約があるので、これが課題である。	B	文化祭や各委員会の新しい活動を考える時に、生徒の声を大切にし、主体的に取り組むことができる生徒を増やしたい。	
	委員会活動の充実	各行事や活動計画に向けて、積極的に取り組めたか。					
学校運営	地域との連携	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。 地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。		5月に授業参観実施。社会人向けの6講座(うち午後に3)を新設し、聴講生が在校生とともに学習を行っており、好評である。また7月に松本市との共催により、もの作り講座(2講座)も開設、好評であった。	A	来年度も計画したい。	
	組織の運営	単位制の一層の充実	「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。		「内規集」は、年度内に改訂し、新年度から施行する予定である。「定時制ハンドブック」は、転換後の実態を踏まえ、改訂した。	B	多部制への転換による新体制移行の中、新しい学校のあり方について職員間で検討・議論する場が設定できなかった。現状では会議の実施自体に大きな時間的制約がある。
		組織の充実	学習指導と進路指導をより充実させるための組織づくりができたか。				
		校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。 意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。				
研修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。 上記生徒への適切な対応をおこなうための研修ができたか。		月1度のワークショップ(生徒の情報交換を含む)を持つよう努めるとともに、8月には特別支援教育に関する定時制全職員参加の研修会を実施した。授業公開は、校外・校内を含めて実施できた。	B	ワークショップを月一度のペースでは行えなかった。昼間定時制時代に大きな意義のあった生徒理解の機会が、物理的要因によって失われつつある。ソフト面での重要な課題である。学習指導や授業法の研修は教科を超えた課題として今後も研究が必要である。	
	授業法の研修	学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。 校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。					